

平成28年度図書館評価（実績報告）

湖南省立図書館

図書館評価について

公立図書館が、何を目的としてどのような運営をし、結果はどうであったかといった情報を、市民に分かりやすい形で公開し、図書館の望ましい姿や課題を市民と共有して、運営の改善を図ることは、大切なことです。平成 20（2008）年の図書館法改正により、公立図書館は運営の状況について評価を行い、その結果に基づき運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならないことになりました。また、運営状況に関する情報を積極的に提供できるよう努めることが求められています。

湖南市立図書館では、他の市の図書館評価や、湖南市立図書館の事業方針を参考に、評価項目及び指標を決定し、それをもとに、図書館で内部評価を行い、図書館協議会の皆さんに外部評価をいただき図書館評価を作成しました。これまで、湖南市立図書館では、利用状況や事業展開等、運営状況の報告を公開してきましたが、これだけではなく図書館評価という形で、図書館の運営がどうであったのか結果を公表します。

《参考資料》

●『図書館法』（平成 20 年 6 月 11 日法律第 59 号 改正）

第 7 条の 3（運営の状況に関する評価等）

図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

第 7 条の 4（運営の状況に関する情報の提供）

図書館は、当該図書館の図書館奉仕に関する地域住民その他関係者の理解を深めるとともに、それらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該図書館の運営状況に関する情報を積極的に提供しなければならない。

●『公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準』（平成 13 年 7 月 18 日文科科学省告示）

（3）図書館サービスの計画的実施及び自己評価等

① 公立図書館は、そのサービスの水準の向上を図り、当該図書館の目的及び社会的使命を達成するため、その図書館サービスについて、各々適切な「指標」を選定するとともに、これらに係る「数値目標」を設定し、その達成に向けて計画的にこれを行うよう努めなければならない。

② 公立図書館は、各年度の図書館サービスの状況について、図書館協議会の協力を得つつ、前項の「数値目標」の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うとともに、その結果を住民に公表するよう努めなければならない。

平成 28 年度 湖南省立図書館サービス状況点検・評価 実績報告・評価

内容	評価指標	H28 年度実績	H28 年度目標	H27 年度実績	H26 年度実績	H25 年度実績
(1)図書資料等の整備と整理 および利用促進	① 購入図書冊数 (冊)	10,522	10,183	11,069	11,575	11,568
	② 蔵書数 (冊)	354,018	352,000	358,404	352,786	350,913
	③ 年間貸出冊数 (冊)	413,851	445,969	440,624	445,687	468,737
	④ 実利用 (貸出) 者数 (人)	10,314	11,208	10,929	11,009	11,491
	⑤ ※新規登録者数 (人)	1,145	1,300	1,310	1,024	1,352
	⑥ 実質登録率 (%)	18.8	20.3	19.9	20.1	20.9
	⑦ ※市民一人当たりの貸出冊数 (冊)	7.5	8.2	8.0	8.1	8.5
	⑧ 予約件数 (件)	16,991	19,775	19,338	18,544	18,198
	・うちweb予約件数 (件)	8,693	9,039	8,862	8,694	8,473
(2)利用に応じたサービスの 充実	⑩ ※児童一人当たりの児童書の貸出冊数 (冊)	19.1	20.5	20.3	19.9	21.1
	⑪ ※おはなし会参加人数 (人)	1,306	1,100	1,217	995	978
	⑫ 学校協力貸出冊数 (冊)	1,038	1,530	1,506	1,120	1,017
	⑭ ボランティア人数 (人)	66	80	79	81	81
	⑮ 特設コーナー設置件数 (件)	144	130	129	126	128

※の項目は総合計画や教育振興基本計画により目標値が既に定まっている項目。

(1) 図書資料等の整備と整理および利用促進

サービス内容	H28年度取り組み内容とその成果	サービス指標	内部評価	H28年度実績	達成率	H28年度目標値	H27年度実績
<p>新鮮かつ魅力ある蔵書内容維持のため、資料を更新し計画的な除籍を進めます。</p> <p>行政資料、郷土資料の収集、保存を強化します。</p> <p>貸出・予約サービスを重視し、利用しやすく市民に親しまれるカウンター対応に努めます。</p> <p>移動図書館車の活用を行うとともに、なるべくいずれかの図書館が利用できるようにします。</p>	<p>新規図書購入冊数は目標通り達成した。予算額は27年度と同額。</p> <p>適正な書庫管理のため除籍を重点的に行った。除籍冊数は15,000冊程で、蔵書数の目標を達成した。</p> <p>全館で予約冊数が2,300冊あまり減少、特に甲西館が1,800冊程減少した。</p> <p>実利用者数は92%とほぼ目標を達成したが、新規登録者数は88%で27年度の実績も下回った。</p> <p>新しく図書館職員となった人は司書と組になってカウンターに入り、司書が指導を行いスキルの伝達に努めた。</p> <p>市内全域サービスの一環として引き続き移動図書館の地域巡回を行った。甲西館内にカフェコーナーを設置し居場所としての図書館づくりに努めた。</p> <p>図書館システムの更新が1年間再延長されたため図書館HPのスマートフォン対応ができなかった。新システムの導入は平成30年4月を計画中。</p>	①購入図書冊数(冊)	I	10,522	103.3	10,183	11,069
		②蔵書数(冊)	I	354,018	100.6	352,000	358,404
		③年間貸出冊数(冊)	I	413,851	92.8	445,969	440,624
		④実利用(貸出)者数(人)※	I	10,314	92.0	11,208	10,929
		⑤新規登録者数(人)	III	1,145	88.1	1,300	1,310
		⑥実質登録率(%) ※	I	18.8	92.6	20.3	19.9
		⑦市民一人当たりの貸出冊数(冊)	I	7.5	91.5	8.2	8.0
		⑧予約件数(件)	III	16,991	85.9	19,775	19,338
		・うちweb予約件数(件)	I	8,693	96.2	9,039	8,862
		※実利用(貸出)者数 1年間に1冊以上本を借りた人の人数。同じ利用者が1年間に何回利用しても1人と数えられる。 ※実質登録率 湖南省の人口の内、1年間に図書館で1冊以上本を借りた人の割合。					

<p>内部評価</p> <p>○全体評価 Ⅱ</p> <p>○個別評価</p> <p>【蔵書管理について】 書庫管理の適正化、5年後のあるべき蔵書構成を想定した上で計画的に除籍を進めた。</p> <p>【甲西館の新庁舎への複合化計画について】 新庁舎への移転計画に向け、湖南省立図書館全体のグランドデザインを職員全員で話し合った。</p> <p>【図書館未利用者について】 これまで図書館に来られていない方に利用してもらおう試みとして、甲西館内にカフェコーナーを設置し、居場所としての図書館づくりを心掛けた。</p>	<p>外部評価</p> <p>○全体評価 Ⅱ</p> <p>○図書館協議会からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎への甲西図書館の移転が検討されているが、施設だけでなく、例えば甲西・石部両館の特長を明確化するなど、湖南省の図書館運営にまで踏み込んだ図書館像（グランドデザイン）を明確にし、図書館協議会に示してほしい。 ・平成28年度は計画的に資料の除籍を進め蔵書数の目標を達成されたが、新庁舎への甲西図書館の移転が検討もされているようなので、さらに適切な蔵書管理に努めてほしい。 ・平成29年2月から除籍された本のリサイクルを、常時図書館入り口の風除室に配置し自由に持ち帰っていただけるようにされたが、利用者から好評なので継続してほしい。 ・年間貸出冊数、実利用（貸出）者数、新規登録者数等の利用状況を示す指標は、この数年間以上にわたっていずれも減少しており、とりわけ年間貸出冊数はピーク時（55万4千冊）から比べて平成28年度は41万3千冊余りと14万冊余り減少している。活字離れが進みネット社会が進展するという社会全体の趨勢の中で、やむをえない面があるとは考えられるが、全国の図書館の状況等も視野に入れながら、このような社会の状況の中での図書館の在り方についてさらに検討を進めるとともに、利用状況の低下傾向については、当館の利用者の状況（年齢構成や読書の傾向等）、湖南省特有の事情等を踏まえ、丁寧な検討がおこなわれるようお願いしたい。
---	--

		<ul style="list-style-type: none"> ・障がいをもった方、外国籍の方や、中高生、働き世代など、図書館の利用が少ない層の利用の促進方法を検討してほしい。 ・検索システムについて、使い勝手の悪い部分も見受けられるので、利用者のニーズも把握しながら使いやすいシステムの構築に努めてほしい。 ・図書館のHPがスマートフォンの機種によっては見ることができないものもあるので、対応をお願いしたい。
--	--	---

I：目標値に対して達成率 90%以上。

II：前年度より低下していないが、達成率は 70～90%。

III：前年度より低下していて達成率が 70～90%。

IV：前年度より低下していて達成率 70%未満。

(2) 利用に応じたサービスの充実

サービス内容	H28年度取り組み内容とその成果	サービス指標	内部評価	H28年度実績	達成率	H28年度目標値	H27年度実績
①児童サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・児童1人当たりの児童書の貸出冊数は19.1冊で目標をほぼ達成した。新鮮で魅力的な児童書を提供するため、年数がたち汚破損した本の買替を進めた。季節やテーマにより特設コーナーを設置した。 ・お話会、人形劇、ポイントラリーを継続して開催した。乳幼児健診での啓発事業を引き続き行うことにより、本に親しむ場を設けた。 ・幼稚園や保育園へ、読み聞かせ用の絵本のセット貸出を行った。 	⑩児童一人当たりの児童書の貸出冊数(冊)	A	19.1	93.2	20.5	20.3
		⑪おはなし会参加人数(人)	A	1,306	118.7	1,100	1,217
②学校および学校図書館との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館への調べ学習用図書の協力貸出冊数が27年度より減少し、達成率が70%に届かなかった。26年度実績は1,120冊、25年度は1,017冊だったので26年度以前の水準に戻った。 ・引き続き移動図書館による本の貸出、先生や学校図書館ボランティア向けの講座への講師派遣など行った。 ・小中学生対象の夏休み向けブックリストを作成し、「小学校1～3年生向け」「小学校4～6年生向け」リストは学校を通して小学生全員に配布、中学生対象の「10代向け」リストは館内で配布した。 	⑫学校協力貸出冊数(冊)	C	1,038	67.8	1,530	1,506

<p>③高齢者、障がい者、多文化共生サービスの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大活字本やCDブックの収集・提供、朗読ボランティアによる「声の広報こなん」などの提供を継続して行った。 ・市国際協会と連携し外国語絵本をたのしむおはなし会を開催した。洋書コーナーの資料や日本語学習の資料を継続して収集することにより、外国語資料や日本語学習の本がよく利用されるようになった。 		A				
<p>④集会行事等の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市読書の魅力種まきプラン推進プロジェクトの一環で、児童文学作家斎藤惇夫の講演会を行った。 ・郷土ゆかりの河野裕子さん、田村一二さんの集会行事を行うとともに、地域に関連した講演会や展示会を開催した。 		A				
<p>⑤学習の成果を生かしたボランティアとの協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朗読・点訳ボランティアと協働し障がい者サービスの提供を行った。 ・ボランティアに協力しておはなし会や人形劇を開催した。 ・市民主体の実行委員会形式で企画・運営されるビブリオバトルを引き続き共同開催した。 	<p>⑭ボランティア人数 (人)</p>	A	66	82.5	80	79
<p>⑥庁内各部署との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市平和祈念事業の一環として「滋賀で学ぶ戦争の記録展」など、市内各部署と連携した展示会を計6回開催した。 ・三雲まちづくり協議会主催のみちくさコンパスに合わせ、「東海道五十三次浮世絵複製画展」を開催した。 		B				

<p>⑦地域住民の課題に対応したサービスの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予約本や市民とのカウンターでの対応などにより、市民のニーズを把握し資料の収集に反映させた。 ・資料の特設コーナーを設置し、市民の関心に応じた資料をその都度集めて提供した。 ・企業内人権問題研修向けに人権研修の教材として役立つ図書のリストなど、目的別のブックリストを作成した。 	<p>⑮特設コーナー設置 件数（件）</p>	<p>A</p>	<p>144</p>	<p>110.8</p>	<p>130</p>	<p>129</p>
<p>内 部 評 価</p> <p>○全体評価 B</p> <p>○個別評価</p> <p>【転入者に対する利用案内について】 市内転入手続きのため市民課に来庁された時、利用案内と図書館カレンダーを配っていただくよう依頼するとともに、館内配布用の利用案内として、「インターネット利用編」、「新成人編」など各種作成しニーズに合わせて提供した。</p> <p>【館内の掲示物について】 館内の書架案内図を2倍に拡大したものを掲示し、利用者の高齢化に対応した。石部館では掲示している各種利用案内を大きい文字やわかりやすい表示にしたものを作成した。</p> <p>【ブックリストについて】 小中学生対象の夏休み向けブックリストを作成し学校に配布したほか、企業内人権問題研修向けに人権研修の教材として役立つ図書のリストを作成し、人権啓発企業訪問の際に配布してもらった。</p>	<p>外 部 評 価</p> <p>○全体評価 B</p> <p>○図書館協議会から意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童1人当たりの児童書の貸出冊数はほぼ目標を達成したが、前年度（平成27年度）実績の約94%にとどまっており、近年の減少傾向に歯止めをかけることとはならなかった。このような状況を踏まえ、平成29年度には保育園、幼稚園、こども園の園児の保護者や先生を対象に、子どもの頃から本に親しむためには周囲の大人の関りが大切であることを伝えるための出前講座を開催するなど、前向きな取り組みが行われているが、好評を博したポイントラリーのような新たな取り組みについても、積極的に検討していただくようお願いしたい。 ・障がい者の読書ニーズについて把握に努め、きめ細かいサービス提供が行えるよう検討願いたい。 ・学校図書館の調べ学習用図書の協力貸出の評価がC判定であるが、原因を分析し、改善すべきであれば改善してほしい。 						

【移動図書館の巡回について】

小学校・一般ステーション向けの移動図書館の巡回貸出を引き続き行った。校内に、児童に巡回日を周知するためのポスターの貼付を行った。

【サポーターの募集について】

本のリサイクルのサポーターの募集を2回行い、いずれもお手伝いいただいた。

【読書指導について】

園児を持つ保護者と園の先生向けに、子どもの頃から本に親しむために周囲の大人が関わることの大切さを伝える出前講座開催のための経費を29年度に予算化した。

・移動図書館新車について、市民のニーズを把握することが、まず必要である。聞き取りや廃止したステーションの後追いも含めた調査の実施が望まれる。

・移動図書館のあり方の一つとして、本の貸出など従来の基本的な機能に加えて、福祉施設などに一定の期間停車し、地域の市民が集えるようにするなど、まちづくりの一環としてサテライト的な役割を果たすことも検討してほしい。

・図書館サポーターについては、平成28年度には本のリサイクルの準備で手伝っていただいたということだが、今後どのような活用を想定しているのか示してほしい。

・子どもの活字離れと言われるが、おはなし会をした時、普段落ち着きのない子どもが熱心に聞いてくれたり、若い層が映画を見て関心を持ち、ノベライズ化された本を読んだりするなど、興味が広がっていることもあるので、何らかのきっかけづくりは大切である。

・図書館に足が遠のき始める中高生に来てもらうために、年代が近く関心事も似ている大学生、特にまちおこしで活動する学生などにサポーターとして参加してもらえないか。そして、中高生が本に関心を持ってもらえる企画を考えてもらえないか。その際、サポーター自身にも取り組みを終えた後の成就感や満足感をもってもらえるようにすることが肝要である。

・何をするにしても、新しい取り組みをするためには人手がかかる。サポーターは自分の関心が高いことには積極的に関わってくれるので、サポーターに個々の力を発揮してもらえるような工夫が必要である。

- 評価基準 A：計画通りに実施でき、成果があった。
B：課題はあるものの、概ね計画どおり実施できた。
C：不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。

なお、数値目標のあるものは、以下のとおり。

- 評価基準 A：達成率 90%以上。
B：達成率 70%～90%未満。
C：達成率 70%未満

※脚注

- ・ビブリオバトル：「知的書評合戦」とも呼ばれる。各自が紹介したい本を1冊持ち寄り、5分間で紹介、一番読みたいと思った本を参加者全員が投票し「チャンプ本」を決める本の紹介コミュニケーションゲーム。